



NEWSLETTER

2025 年特別編集号

編集・発行：白石市国際交流協会事務局（白石市まちづくり推進課内）

2025 年度オーストラリア友好親善訪問団

| 7月28日（月）～8月6日（水）

カウラの町を背景に～



❖ 2025 年度 オーストラリア友好親善訪問団 ❖

- 期 間：7月28日（月）～8月6日（水）の10日間
- 内 容：ホームビジット、学校体験、校外学習、市内見学
- 訪問団：市内中学2年生8名、引率2名

★訪問団員の抱負★

《楽しみと緊張の気持ちが半々ありますが、これまでの研修会を通して仲間と勉強してきたことや準備してきたことに自信を持ってがんばってきます！》《たくさんの人と関わり、白石市の良さや日本文化について伝えたい》《オーストラリアの文化を学んできます。特に、どんな生活をおくっているのか、そして、コミュニケーションを楽しんできたいと思います》《帰国して、私たちがどれだけ成長したか確認するのが楽しみです》《行ってきます!!》



交流先は、日本と深い繋がりのあるオーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州カウラにある聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラです。この交流は2017年にスタートし、今回で6度目の訪問となります。2019年からは相互交流がスタートしました。

訪問団の生徒は、聖ラファエル校でオーストラリアの学校生活を体験し、また、同校の生徒宅を訪問し一緒に食事を摂ったり、遊んだり、休日も一緒に時間を過ごしました。学校では、訪問団全員で白石や日本についてのクイズ発表を行い、班活動では、書道の紹介と抹茶をふるまいました。そのほか、カウラやキャンペラでは歴史的な場所を訪問し、戦争の悲惨さや平和であることの大切さを学びました。

◆シドニー到着

| 7月29日(火)



▲最初の見学地、
フェザーデール・シドニー・ワイルドライフ・パーク動物園



▲オーストラリアの風に吹かれリラックス中？



▲オペラハウスの前で

◆シドニー出発～カウラ、聖ラファエル校へ～ホストパディと対面

| 7月30日(水)



▲濃霧のためブルーマウンテンズ国立公園へ立ち寄りず・・・残念。▲聖ラファエル校到着！



▲ホストパディのみなさんが待っていてくれました♡



▲ドキドキの対面です!!



▲しっかりと握手！



▲日本のお辞儀で挨拶・・・!(^^)!



▲ちょっと恥ずかしいなあ・・・(^^)；



▲お辞儀をしてから、konnichiwa!



▲「うふふ♡」Nice to meet you.



▲ここでも、しっかりと握手！



▲Hi.



▲うわあ～、モジモジ・・・ Nice to meet you !

◆聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラとオーストラリアの学校生活



●聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラについて●

- ✓私立のカトリックの完全一貫校。校風は「強さとやさしさ」
- ✓幼稚園児から高校3年生までが通う。
- ✓2025年度の全校生徒数：449名 ※2025年4月調べ
(初等部：261名、中高等部：188名)
- ✓学校のすぐ隣に教会がある。
- ✓年間を通じて特別な行事の際には、全校生徒で祈りを捧げます。

●オーストラリアの教育制度・学校生活●

- ✓州政府（各州に教育省がある）が教育制度を管轄している。
- ✓4学期制。「年度」は1月末始まり12月終わりです。※州で異なる。
- ✓1日の授業が終わるとすぐに下校する。
- ✓日本のような放課後のクラブ活動はない。
- ✓学年の呼び方は、6年生以降も7年生、8年生、9年生と、12年生まで続けた呼び方をします。
- ✓生徒による清掃活動はなく、清掃は業者が行う。
- ✓義務教育は10年生（高校1年生）まで。

◆学校体験1日目（授業体験、校外学習）

| 7月31日（木）



▲朝、ホテルを出発。徒歩で登校。



▲授業中



▲授業内容で、自由に机を動かします。日本のようにホームルームはないので自分たちが移動します。



▲スクールバスで校外学習へ。



▲「みなさ〜ん、出発しま〜す！」国際交流担当のオルボン先生は、日本からの生徒を案内するために大型免許を取得しました!! まず観光案内所でカウラ日本兵捕虜集団脱走事件について学びました。その後市庁舎前にある「世界平和の鐘」へ。そして、バルビューヒル保護区へ。カウラの町を一望できました(^^)♪

◆学校体験 2 日目 (全体発表、班活動、校外学習)

| 8 月 1 日 (金)



▲全体発表ではクイズを出しました。



▲中等部の生徒が集まり、みなさん楽しく参加してくれました！▲最後の2間は早押しクイズ！盛り上がりましたよ!!



▲班活動には中学1年生が参加。準備中はきちんと列を作って待っていました。



▲茶道チーム



▲書道チーム



▲書道チーム



▲ベン・クーリー氏の牧場へ。ここでは子羊や生後4ヶ月の子犬を抱っこしたり、馬に餌を与えたりしました。



●学校での様子 ～授業中、休憩時間、ランチ、下校～



▲授業体験 ー 日本との違いを体験中。



▲お昼休みはみんなでバスケ！



▲日本語の教室があります。聖ラファエル校では、カウラと日本の歴史的・文化的つながりを強化するため、日本語科目が中学1年生のカリキュラムの主要科目となっています。



▲上級生のお兄さんたち!(^^)!お土産をもらいました！



▲授業が終わるとすぐに帰宅します！

◆終日ホストファミリーと過ごす～夕方はボンファイヤーで全員集合～お別れ

| 8月2日(土)



◆聖ラファエル教会訪問～カウラ市内見学～首都キャンペラへ

| 8月3日(日)



▲朝7時30分にホテルを出発し、学校のすぐ隣にある聖ラファエル教会を見学。▲タオ神父に温かく迎えていただきました。日曜礼拝後、外でコーヒーや軽食がふるまわれていました。



▲日本人戦没者墓地を訪問し、墓地が造られた経緯を学びました。このようにきれいに整備されるまで多くの人たちの努力がありました。



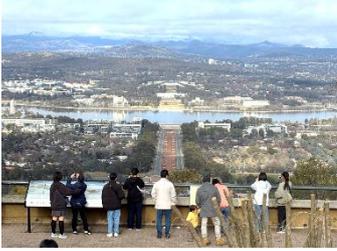
▲戦争捕虜収容所跡地

▲日豪平和友好のシンボル「日本庭園」を見学。

▲お世話になったオルボーン先生にご挨拶。

◆首都キャンベラ見学

| 8月4日(月)



▲マウントエインズリー展望台でキャンベラの町を見下ろす。▲戦争記念館訪問。

▲国会議事堂訪問。英国の議場と同様に赤（上院）と緑（下院）の内装になっています。

★カウラ戦争捕虜収容所日本兵集団脱走事件とその後について★

カウラ市には、第二次世界大戦時に捕虜収容所が置かれており、当時約4000人が収容され、このうち約1100人は日本人だったと言われています。1944年8月5日の午前2時頃、「生きて虜囚の辱めを受けず」との戦陣訓を叩きこまれていた日本兵捕虜による脱走事件が発生しました。231人の日本兵捕虜と収容所の警備などを行っていた4人のオーストラリア人衛兵が亡くなりました。

集団脱走事件の犠牲者の墓地はしばらく放置されていましたが、これに心を痛めたカウラ退役軍人会のメンバーが、かつての敵対国である日本に対する反日感情が社会に残る中にも関わらず、墓地の維持と管理をするようになりました。その後、オーストラリア連邦政府の協力のもと、第二次世界大戦時にオーストラリア国内で亡くなった日本兵捕虜等を埋葬する日本人戦没者等墓地がカウラ市内の共同墓地の一角に整備され、適切に管理されるようになりました。

現在、カウラ市内には捕虜収容所跡地、日本庭園、サクラアベニュー、世界平和の鐘などが整備されており、カウラ市は今では日本とオーストラリアの戦後和解と友好関係を象徴する街となっています。



◆オーストラリア派遣事業を振り返って...



★生徒の感想★

《道路に街灯がないことに驚いた。白線に反射する材料が埋め込まれている》《生徒と先生のフレンドリーな関係の中にも信頼があることが分かった》《捕虜収容所からの脱走は、生きる可能性がとても低い命がけの脱走だったことを知り心が痛んだ》《カウラ脱走事件は忘れられてはいけないと思った》《授業の席は基本的に自由に堅苦しくない》《授業中生徒たちが席を立て自由に友達に質問していくことに驚いた》《自分の英語が伝わらない時、翻訳機が使われたのが悔しかった》

《言葉の壁があったけど、その中で感じたこと学んだことが自分の成長と自信につながり、もっと英語力を伸ばしたいという気持ちが強くなった》《家庭訪問ではホストファミリーの温かさをたくさん感じられた》《自分の英語力が分かったのでこれから頑張っていこうと思う》《たくさんのことを学んだ。日本とカウラの関係もそうだけど、オーストラリアで感じたことや学んだことを忘れずに周りの人に伝えていきたい》《初対面の人にでも明るく挨拶するのが当たり前》《カウラは静かな町で自然がたくさんあった》《英語をもっと話せた方が断然会話が弾むので、もっと勉強を頑張る》

◆白石市国際交流協会事務局（白石市役所まちづくり推進課内）◆

電話 0224-22-1327 Eメール koryu@city.shiroishi.miyagi.jp